ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

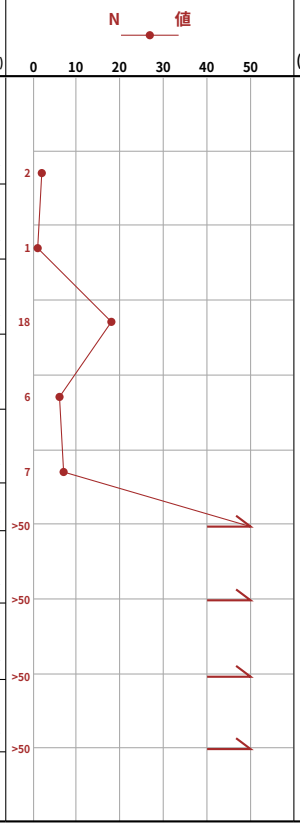
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	BP.6	調査位置				北　緯	36 ° 28 ’ 2.1700 ”
発 注 機 関	栃木県　安足土木事務所			調査期間	2010-08-09 ～ 2010-08-10	東　経	139 ° 30 ’ 31.9000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	211.84 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	
総 掘 進 長	9.00 m							試 錐 機		ハンマー落下用具	
								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	211.14	0.60	0.70		表土 (SF)	黒	非常に緩い		非常に軟質な有機質火山灰土である。		
					シルト質砂礫 (GSM)	暗褐 灰			礫はφ5～10mmの亜円～亜角礫を主体に最大φ20mm程を点在する。礫間は多量の細粒土分で緩く充填される。		
1	210.74	0.40	1.10		礫混り砂質シルト (MS-G)	黒			土は有機質を帯び、非常に軟らかく、全体に細～中砂分を含有している。礫はφ5～10mm程を認める。		
2					礫混りシルト質砂 (SM-G)	暗灰			細～中砂分を主体に多量の細粒土分を含有し、非常に緩い性状下にある。礫はφ5～10mmを混入する。		
3	208.89	1.85	2.95		風化岩（砂岩） (WR)	暗茶褐			GL-3.5m付近まで固結度合いがやや高い。風化・変質が岩芯にまで達しており、構成鉱物及び岩片等が変質鉱物で完全に置換され、粘土化進行が顕著であり、原岩組織を殆ど～全く残さない。コアは粘土状で採取され、亀裂は認識できない。GL-5.5m以深、岩片の礫状混入が見られ、幾分かの硬度上昇を感じる。岩盤等級区分は「D級」。		
4											
5											
	205.94	2.95	5.90			褐灰					
6					砂岩 (S)	淡褐灰			ダイヤモンドビット(岩盤用刃先)での掘進が不可欠である。GL-6.8m付近まで網状亀裂の発達により、コアはφ5～40mm程の礫状で採取される。以深は柱状形にて採取されるものの、斜状亀裂が多く、コアパック開放後に3～5cmの片状～棒状に分離する。岩片自体は弱風化による局所的な脱色や亀裂目に沿う酸化痕が見られるが、母岩強度の劣化は無く、安定した状態にある。岩盤等級区分は「CL級」。		
7											
8											
9	202.79	3.15	9.05								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1		1/20	2/30	2
1.45					
2.15			1/30	1/30	1
2.45					
3.15	7	6	5	18/30	18
3.45					
4.15	2	2	2	6/30	6
4.45					
5.15	2	2	3	7/30	7
5.45					
6.00	50/8			50/8	>50
6.08					
7.00	50/6			50/6	>50
7.06					
8.00	50/7			50/7	>50
8.07					
9.00	50/5			50/5	>50
9.05					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						08/09
						08/10